

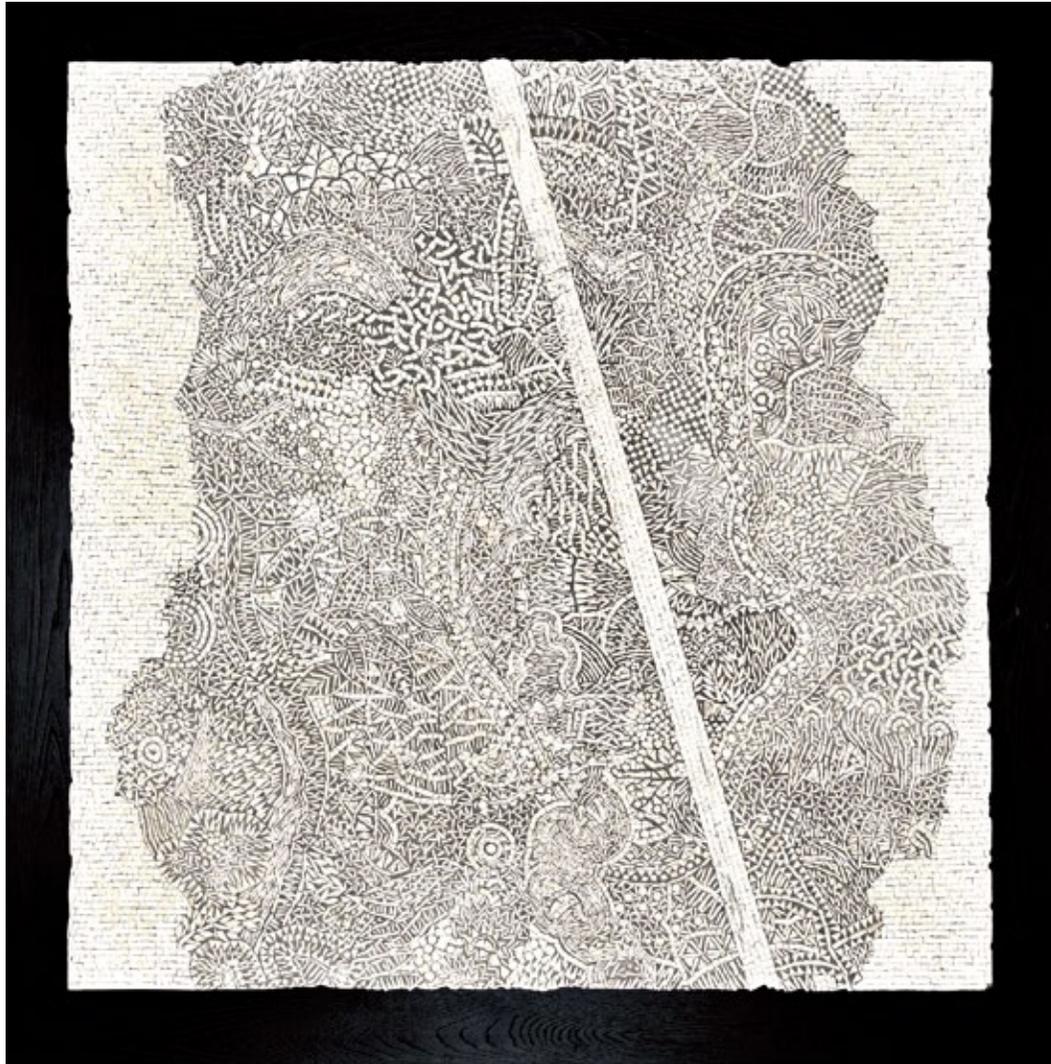


## THE HIRAMATSU HOTELS & RESORTS 宜野座の モザイクについて

このホテル内のモザイクは「自然との共生」をテーマにしています。  
人間と自然との共生の物語がさまざまな局面で描かれています。  
人間が生きるためにはどうしても、ある程度自然を傷つけてしまいます。  
しかし、回復可能な範囲の干渉で留めておきたいものです。  
そういう願いを込めた作品です。

モザイクに使用しているのは、  
イタリア産の「ペルリーノ」という大理石です。  
肌理の細かい柔らかい象牙色の石です。  
割りやすく、割った形もきれいな石です。

モザイク作家  
喜井 豊治



## 森のバイパス

人の手の入らぬ森。そこを縦断するバイパス。

鮮やかな線が森を縦断する。

私たちの都合で、森は傷ついたかもしれない。

残念なことだが、深刻な影響を与えないことを願う。

エグゼクティブツイン

W1000×H1000





## 散歩道行き止まり

森の自然を楽しむために、散歩をする人たちがいる。

散歩道ができて、森に幾何学模様を描く。

それはそれで美しい景色だ。

散歩道は森と人をつなぐ道でもある。

プレミアムダブル

W1000×H1000





## 霧に煙る朝

自然豊かな丘の中に建物が建てられている。  
緑豊かなこの景色の中で、人の建物は優しく風景に  
溶け込んでいるように見える。  
人も人が作る物も、この世界の構成物のひとつだ。

プレミアムダブル

W1000×H1000





## 傾きの場所

人が自らの命や文明を守るために道を造り、家を建てる。  
人の作る構造物は、自然を決定的に壊してしまうことがある。  
その一方で自然の回復力に任せることで、  
人の手を離れてむしろ穏やかな調和が訪れることもあるだろう。  
環境がどちらに傾くか。

プレミアムダブル

W1000×H1000





## 積み木の広場

道路や広場を覆うコンクリートは人の活動の証。  
古びて砕けたコンクリートの床は  
その活発な活動を証している。  
積み木が散らばるように。

プレミアムダブル

W1000×H1000





## 波打つ道を歩く

痛んだ道路、穴が開いて、ひび割れがある。  
時の流れを感じさせて、見る者の気持ちを揺する。

エグゼクティブツイン

W1000×H1000





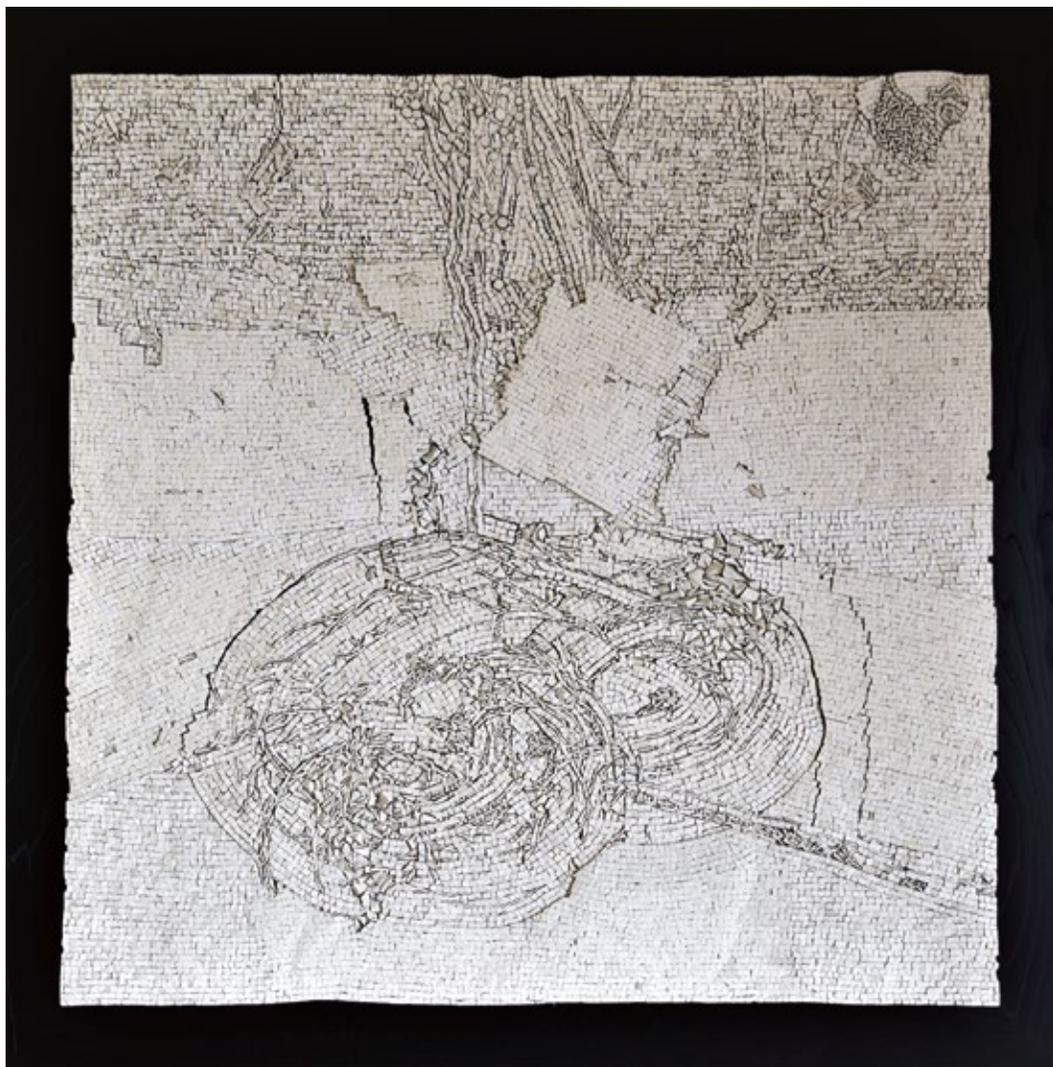
## ただいま準備中

地面の上からは想像もつかない世界が地中にはあるに違いない。  
地中も地上や海の中に劣らず、多様な生き物が活発に活動している。  
やがて地上に生きる私たちの役に立ってくれる日が来るかもしれない。

エグゼクティブダブル

W1000×H1000





## もうすぐ春

土の中で何かが眠っている。

冬眠を終え、春の訪れを待っている。これは希望の象徴。

エグゼクティブツイン

W1000×H1000





## 芽生えの知らせ

ちょっと壊れた敷石の間から、草が顔を出す。  
花が咲き始める。  
敷石に覆われて一見に不毛に見えたが、  
どっこい植物は生きている。

エグゼクティブツイン

W1000×H1000





## 硬い芽吹き

春が来て、長い冬が終わる。

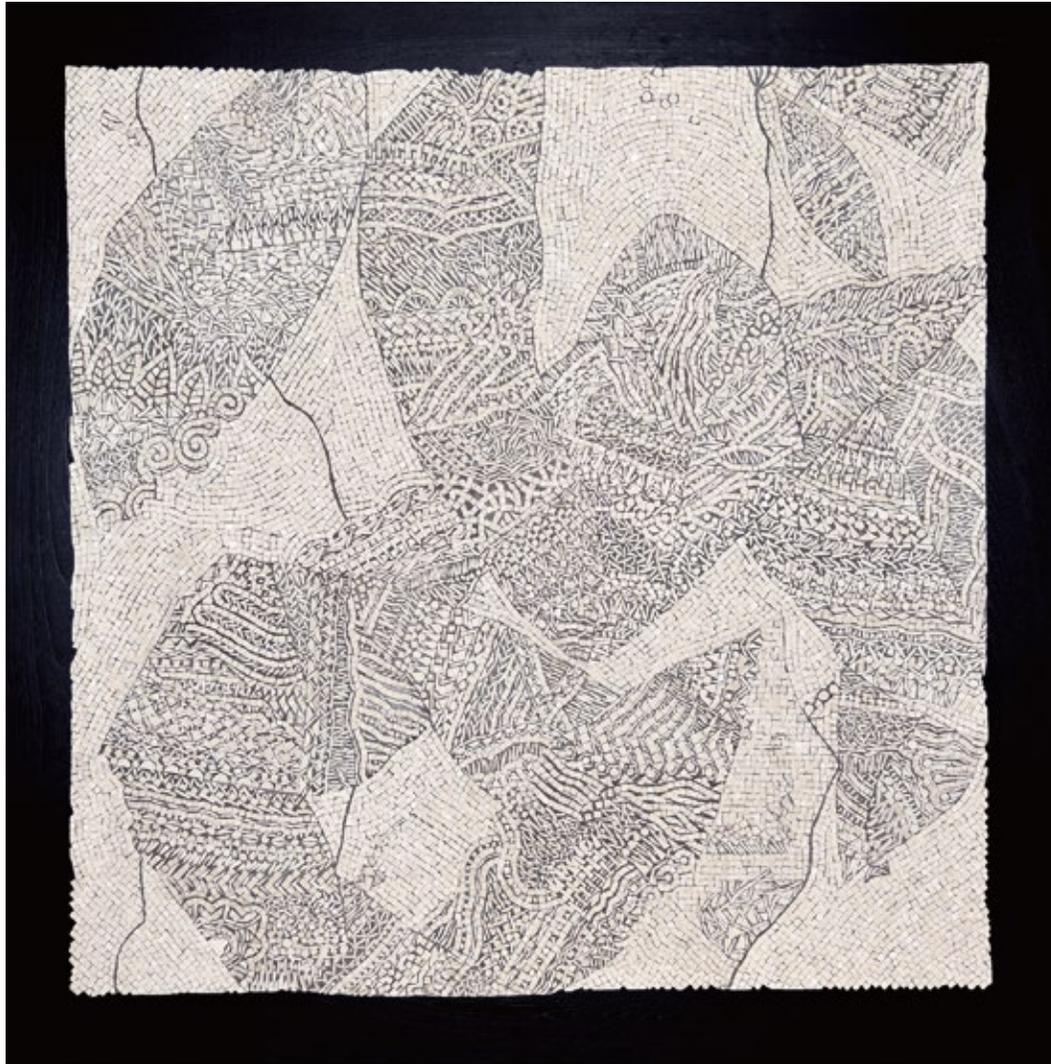
植物が目を覚まし始める。

まだ硬い芽が枝の先に顔を出し始める。

エグゼクティブダブル

W1000×H1000





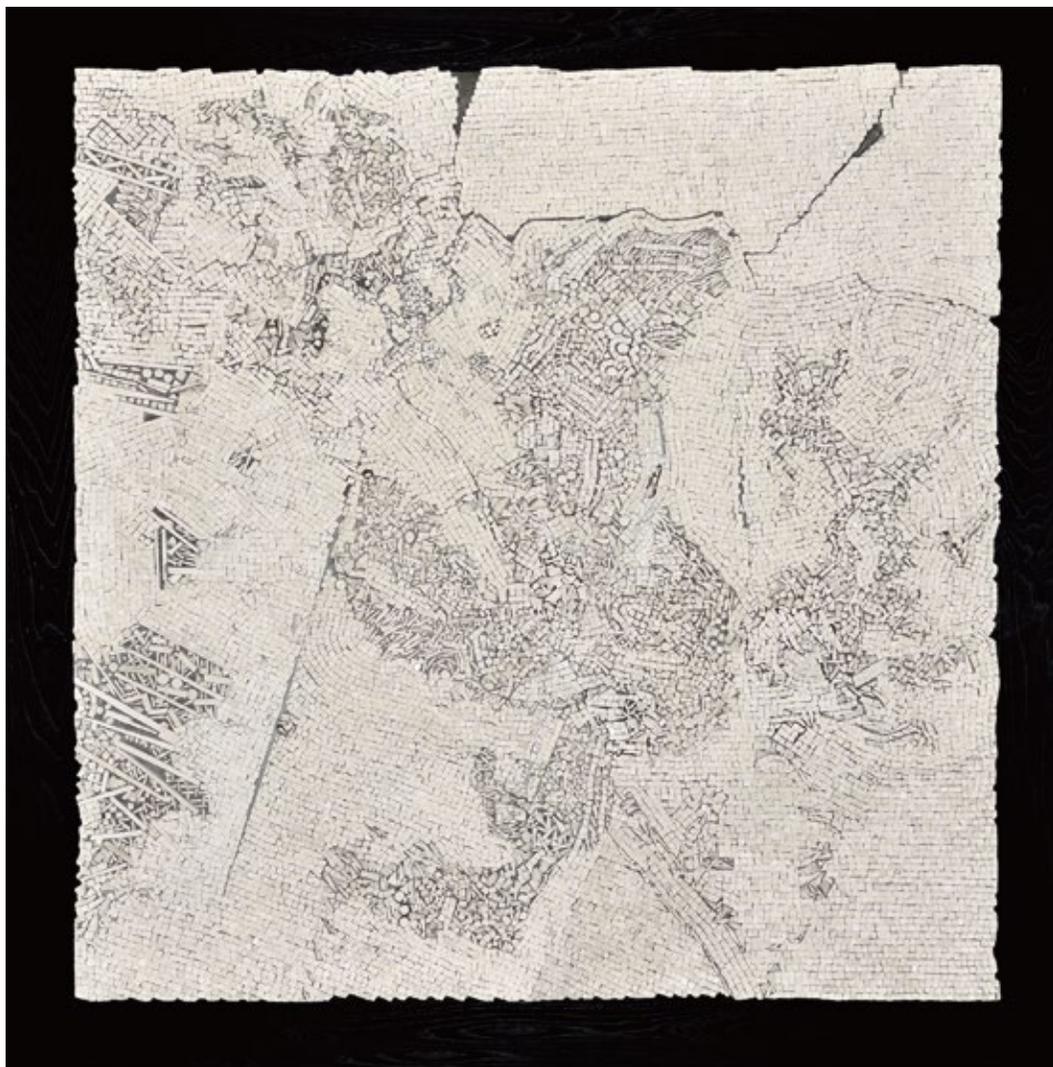
## 花増殖中

荒れた土地に再び植物が育ち、花が咲き始めた。  
生き生きと葉っぱは育ち、茎は伸び、花が咲く。  
命の喜びを感じる時である。

スタンダードツイン

W1000×H1000





## 影は踊る

地面が荒れている。

人の様々な活動が行われた跡が残されている。

それはあたかも、人の影のように、地面に記されている。

活力に満ちた活動が繰り広げられていたのだろう。

スタンダードツイン

W1000×H1000





## 華やぎの季節

葉が茂り、花が咲く。

自然の中の植物は、人に踏みつけられる心配もなく、  
華やかに咲き始める。

プレミアムツイン

W1000×H1000





## 木霊が聞こえる朝

朝霧に煙る丘を見る。

霞む景色の中、どこからか、木霊が聞こえた気がする。

人の声の響きではなく、山の木が語る声なのか。

木霊とは木の霊の声か。

プレミアムツイン

W1000×H1000





## 水は流れる

水はすべての生き物、環境、地形に関わる。命の瀬である。  
人の活動、動物の栄枯、植物の繁栄、  
すべてを支えながら、そういうことと関係なく、  
ただただ、流れ、地球を循環する。

プール付ヴィラスイート（ダブル）

W1000×H1000





## 夢の跡

人が活動すると道路を作り、構造物を建てる。  
人が去った後には地面を加工した跡が残る。  
いわば「兵どもの夢の跡」である。  
その抒情を描いた。

プール付ヴィラスイート（ツイン）

W1000×H1000





## 森の中のできごと

森の中では、人の知らない出来事が起こっている。  
動物や植物の気が集まって渦を巻いているかもしれない。  
それは命の凝縮だ。  
人は知らない。

ヴィラエグゼクティブスイート

W1000×H1000





## 轍が語るもの

車は人の活動を助ける。

人の動きに従って車の轍は残されていく。

それがどんな活動だったか、

轍は想像力を刺激する。

ヴィラスイート（1階）

W1000×H1000





## 若葉繁る頃

葉っぱが元気に繁り、花が咲く。  
なんの制限もなく、元気に育っている。  
なんと気持ちがいい命の姿だろう。

ヴィラスイート (2階)

W1000×H1000





## 花咲きほこる

植物は強い。さまざまな環境の変化にも負けずに、  
一度は途絶えたかに見える花たちも、  
やがて復活して、元気に育っていく。  
その生命力はまぶしい。

レストラン棟 エントランス

W3000×H2000





## 花咲く丘

地上は人が作り出す構造物に覆われていく。  
植物は其中でだんだん窮屈な生き方をさせられる。  
だが、そこには人工の美があって、新たな価値観が生まれる場でもある。  
その美は移ろい易い。やがて別の美を見つけて人々は楽しむ。  
そういう生き方の記憶は化石のように私たちの記憶に積み重なっていく。

レストラン棟 ラウンジバー

W2000×H1000





## 風に舞う

風に舞う雲。

雲を眺めていると、心が空っぽになってやすらぐ。

レストラン棟 2F ダイニング

W2000×H1000





## 緑の森の中

木々育ちや花が咲き、動物たちが動き回る命に満ちた森。

そこをのんびり散歩する。

新鮮な空気を吸って、鳥の声に耳を傾ける。

生命の息吹を感じてリフレッシュしたい。

レストラン棟 1F ダイニング

W3000×H2000

